

「影のない女」参考資料のご案内

新国立劇場でのご観劇前には作品に対する理解の一助として、
また、観劇後の感動をさらに深めるために、
5階情報センター閲覧室にてご覧いただける参考資料を紹介します。
ぜひお気軽にお立ち寄りください。

参考図書

<楽譜>

DIE FRAU OHNE SCHATTEN (影のない女) Boosey & Hawkes 1946年発行
フルスコア。

DIE FRAU OHNE SCHATTEN (影のない女) FURSTNER MUSKVERLAG
ヴォーカルスコア(独語)。

<プログラム>

ハンブルク国立歌劇場「影のない女」日本初演 (1984年日本公演)

バイエルン国立歌劇場「影のない女」(1992年日本公演 市川猿之助=演出)

Theatre National Opera de Paris 「La Femme Sans Ombre (影のない女)」(1980年)

<作曲家関連>

リヒャルト・シュトラウスの「実像」書簡、証言でつづる作曲家の素顔
日本リヒャルト・シュトラウス協会=編/音楽之友社 2000年発行

没後50年を経て、初めて明かされるリヒャルト・シュトラウスの本当の魅力。『ドン・ファン』『英雄の生涯』『ばらの騎士』…数々の傑作に込められたメッセージを解説する。

リヒャルト・シュトラウスのオペラ ウィリアム・マン=著/佐藤俊一郎=訳/第三文明社 1997年発行
シュトラウス音楽の最も重要な分野であるオペラの全15作品を題材に、音楽とドラマや役割との関連を精緻に分析し、作曲家の成長・発展の軌跡を明らかにする。現代の上演写真や、初演時のスケッチ等もカラーで多数収録。

第三帝国のR. シュトラウス 音楽家の「喜劇的」闘争 山田由美子=著/世界思想社 2004年発行
ワーグナー亡きあとドイツ・オペラの黄金期をもたらしたR. シュトラウス。ナチス政権の帝国音楽局総裁という立場にありながら、禁令を犯してまでオペラ『無口な女』の上演を敢行したのはなぜか。ナチスに対する大音楽家の「命がけの悪戯」の謎に迫る。

リヒャルト・シュトラウス ホーフマンスタール 往復書簡全集

ヴァリー・シュー=編/音楽之友社 2000年発行

偉大な音楽家と偉大な詩人の往復書簡集。ドイツ・オペラ史上類をみないものであるばかりか、20世紀オペラを語る上で重要な第一級の第一次資料である。

R. シュトラウス(作曲家別名曲解説ライブラリー) 音楽之友社=編/音楽之友社 1993年発行

R. シュトラウス(大音楽家人と作品) 安益 泰・八木 浩=著/音楽之友社 1964年発行